

新学年暦
— 100分授業制 —
教員ガイド

教育開発支援機構 FD 推進センター

<http://www.hoseikyoiku.jp/fd>

事務局：学務部教育支援課

TEL：03-3264-4268

E-Mail：kyoiku@hosei.ac.jp

2017年11月1日発行

目次

page 1

はじめに

page 3

2018年度学年暦カレンダー

page 8

より充実した授業のために

- 8 | 教員および学生への影響
- 8 | 授業を行うためのヒント

page 13

100分授業モデル

- 13 | 授業移行モデル概要
- 13 | 授業移行モデル解説

page 16

FD推進センターの取り組み

- 17 | FDハンドブック
- 20 | FDアーカイブズ
- 23 | ARCSモデル

はじめに

法政大学は2016年4月に「法政大学憲章」を制定し、従来にも増して教育の質向上、学習環境の整備、学生生活の活性化を目指して様々な教学改革を進めています。その一環として、単位制度に沿った授業時間数の確保と、グローバル化をはじめとする社会環境の変化に対応した柔軟な授業設計ができるよう、授業時間割と学年暦を検討してきました。

この度、学部長会議や大学院研究科長会議等、学内の教学組織の慎重な審議を経て、**2018年度から授業時間を1 Semester 100分×14回の授業実施に変更すること**に決定しました。

本冊子では、その詳細および教員の皆様にとって参考となる事例等をご紹介します。

$$\frac{90}{1350} \times 15 \Rightarrow \frac{100}{1400} \times 14$$

改定の概要

- ◆ 1 授業時間が90分から100分に変更となります。これに伴い、授業時間割が変更となります。
- ◆ 夏季休業期間が従前より長めに確保されます。
- ◆ 休祝日の授業実施が軽減されます。
- ◆ 集中特別授業期間(サマーセッション・オータムセッション・スプリングセッション)を導入します。

授業時間・学年暦改定の理由

- ◆ 1 Semester 100分×14回の授業実施とすることで、単位を実質化するための授業時間数を確保します(1 Semester 1350分超の授業時間確保)。
- ◆ 海外留学や国際インターンシップなど、学生のモビリティ推進を可能とする学年暦を実現します(夏季休業期間の確保)。
- ◆ 月曜日に代表される休日(祝日)授業実施を減少させます(休祝日の授業実施軽減)。
- ◆ 柔軟な授業展開を可能とする学年暦を実現します(集中特別授業期間の導入等)。

2018年度時間割 (2017年度との比較)

	2017年度 3キャンパス共通	2018年度		
		市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
1 時限	9:30~11:00 (90分)	9:00~10:40 (100分)	9:25~11:05 (100分)	9:00~10:40 (100分)
2 時限	11:10~12:40 (90分)	10:50~12:30 (100分)	11:15~12:55 (100分)	10:50~12:30 (100分)
昼休み	12:40~13:30 (50分)	12:30~13:10 (40分)	12:55~13:45 (50分)	12:30~13:20 (50分)
3 時限	13:30~15:00 (90分)	13:10~14:50 (100分)	13:45~15:25 (100分)	13:20~15:00 (100分)
4 時限	15:10~16:40 (90分)	15:00~16:40 (100分)	15:35~17:15 (100分)	15:10~16:50 (100分)
5 時限	16:50~18:20 (90分)	16:50~18:30 (100分)	17:25~19:05 (100分)	17:00~18:40 (100分)
6 時限	18:30~20:00 (90分)	18:35~20:15 (100分)	—	—
7 時限	20:10~21:40 (90分)	20:20~22:00 (100分)	—	—

主な変更点

- キャンパスごとに時間割が異なります。
- 1 時限目の開始時間が早まります。
- 市ヶ谷キャンパスでは昼休みの時間が10分削減され40分となります。
- 夏季休業期間が増えます。

変更に伴う授業への影響

- シラバスは14回の授業を想定して作成します。
- 毎回の授業は100分となるため、授業内容や方法を変更することが考えられます。



学部・大学院の2018年度学年暦をわかりやすく一覧できるような
カレンダーを作成しました。

但し、大学祭・追試・集中授業・通信教育課程等の情報は
含まれていませんので、詳細については、
大学公式ホームページでご確認ください。

学部 (市ヶ谷) P.3
デザイン工学部含む
学部 (多摩) P.4
学部 (小金井) P.4

大学院 (市ヶ谷文系 通年・二期制・四期制) P.5
大学院 (多摩) P.5
大学院 (小金井) P.6
大学院 (デザイン工学研究科) P.6
大学院 (専門職大学院法務研究科) P.7
大学院 (専門職大学院IM 研究科) P.7

■ 授業期間 (補講日含む) ■ 試験期間 □ 休み ■ サマーセッション期間 ■ オータムセッション期間 ■ スプリングセッション期間

学部 (市ヶ谷) デザイン工学部含む

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月							2018年 7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
					1				1	2	3	4	5	6					1	2	3						1	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29		
30																					30	31						

2018年 8月							2018年 9月							2018年 10月							2018年 11月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
			1	2	3	4	5					1	2			1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11		
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18		
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25		
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				26	27	28	29	30					

2018年 12月							2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2			1	2	3	4	5	6				1	2	3					1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
31																											

学部 (多摩)

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月							2018年 7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
						1			1	2	3	4	5	6					1	2	3						1	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29		
30																					30	31						

2018年 8月							2018年 9月							2018年 10月							2018年 11月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
			1	2	3	4	5					1	2			1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11		
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18		
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25		
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				26	27	28	29	30					

2018年 12月							2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2			1	2	3	4	5	6				1	2	3					1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
31																											

学部 (小金井)

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月							2018年 7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
						1			1	2	3	4	5	6					1	2	3						1	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29		
30																					30	31						

2018年 8月							2018年 9月							2018年 10月							2018年 11月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
			1	2	3	4	5					1	2			1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11		
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18		
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25		
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				26	27	28	29	30					

2018年 12月							2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2			1	2	3	4	5	6				1	2	3					1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
31																					</						

■ 授業期間(補講日含む) ■ 試験期間 □ 休み ■ サマーセッション期間 ■ オータムセッション期間 ■ スプリングセッション期間

■ 授業期間(補講日含む) ■ 試験期間 □ 休み ■ サマーセッション期間 ■ オータムセッション期間 ■ スプリングセッション期間

大学院 (市ヶ谷文系 通年・二期制・四期制)

Calendar grid for Graduate School (Shikagaya Faculty of Arts) showing months from April 2018 to March 2019 with color-coded days.

大学院 (多摩)

Calendar grid for Graduate School (Tama) showing months from April 2018 to March 2019 with color-coded days.

大学院 (小金井)

Calendar grid for Graduate School (Kojinai) showing months from April 2018 to March 2019 with color-coded days.

大学院 (デザイン工学研究科)

Calendar grid for Graduate School (Design Engineering Research Institute) showing months from April 2018 to March 2019 with color-coded days.

■ 授業期間 (補講日含む)
 ■ 試験期間
 ■ 休み
 ■ サマーセッション期間
 ■ オータムセッション期間
 ■ スプリングセッション期間

大学院 (専門職大学院法務研究科)

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月							2018年 7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
					1		1	2	3	4	5	6		1	2	3					1	2	3	4	5	6	7	8
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	30	
30														30	31						30	31						

2018年 8月							2018年 9月							2018年 10月							2018年 11月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5					1	2		1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		

2018年 12月							2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	1	2	3	4	5	6				1	2	3				1	2	3			
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
31																											

大学院 (専門職大学院IM研究科)

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月							2018年 7月							
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
					1		1	2	3	4	5	6		1	2	3					1	2	3	4	5	6	7	8
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	30	
30														30	31						30	31						

2018年 8月							2018年 9月							2018年 10月							2018年 11月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5					1	2		1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		

2018年 12月							2019年 1月							2019年 2月							2019年 3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	1	2	3	4	5	6				1	2	3				1	2	3			
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
31																											

※一部の科目については、休みに中に授業を実施する場合があります。

より充実した授業のために

教員および学生への影響

授業時間が90分から100分になることによる影響は下記のように考えられます。

教員	学生
 +10分を有効に使うには どうすれば良いか?	 集中力が続かない。

授業を行うためのヒント

ここではすでに100分あるいは105分に移行した他大学の事例^{*1}を参考にして、その留意点を本学に適用すると下記ようになります。

1. 集中力を維持し気分転換できる授業構成にする

◆ 100分だからこそできる授業

100分の授業で実施可能な具体的な手法として、「+10分の活動」と「100分だからこそできる活動」を紹介します。

+10分の活動

+10分でできる代表的な事例は、「小テスト」の実施や学生に記述させるコンパクトな質問用紙である「ミニツツペーパー」の活用です。これらは簡単に授業に取り入れることができます。学生は手を動かしつつ授業やグループワーク等での内容を復習できることから、教育効果の向上が期待できます。教員および学生の双方にとって100分授業の影響をポジティブなものにすることができるでしょう。

また、「大福帳」と言われるカードを利用し、学生が授業のたびに100～200字のコメントを書き入れたカードを教員に提出し、教員がフィードバックを返すことで円滑なコミュニケーションを図る方法や、その回の授業内容に基づいて問題を学生自身に作成させる問題作成、2名の学生がペアになって相互評価を行う「ピア・レビュー」など他にも様々な授業方法があります。こうしたアイデアについてはFD推進センターのWebサイトにある「FDハンドブック」に多数掲載されていますので、参照してみてください。

^{*1} 参考文献：東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 附属教養教育高度化機構 アクティブラーニング部門、+15 (Plus fifteen minutes.): How can we enjoy plus 15 minutes? 2014.

100分だからこそできる活動

100分だからこそできる代表的な事例は、**グループ・ディスカッション**や**学生による発表、学生同士の教え合い**です。

後述する授業支援システムにおいては、「**プレゼンテーション相互評価支援システム**」というツールも用意しています。スマートフォンを用いて学生同士がプレゼンを評価し、その結果を簡単に集計・共有できるシステムです。詳細は「**FDハンドブック**」をご参照ください。

学生のモチベーションを維持する手法として有名なARCSモデルでは「**授業に変化をつけているか**」というチェック項目があります。各回の授業でこうした活動を取り入れ、変化をつけていくのも一つですが、14回の授業の一部にとりいれることで、1セメスターの中で変化を設けたりリズムを変えたりすることも一つの方法です。

2. 授業支援システムや各種ツールを活用する

◆ 授業支援システム授業資料配布機能

資料を学生に配布する場合には、授業支援システムの「**教材**」機能を選択して、学生に配布する教材をPCからアップロードします。また、ある授業時間に複数の資料を配布する場合にはフォルダを作成し、その中に配布する資料をまとめます。自身が担当した他の授業の教材や前年度担当した授業の資料を新規の授業で再利用することもできます。

※資料配布に際し、著作権の取り扱い等にご注意ください。

◆ クリッカー機能

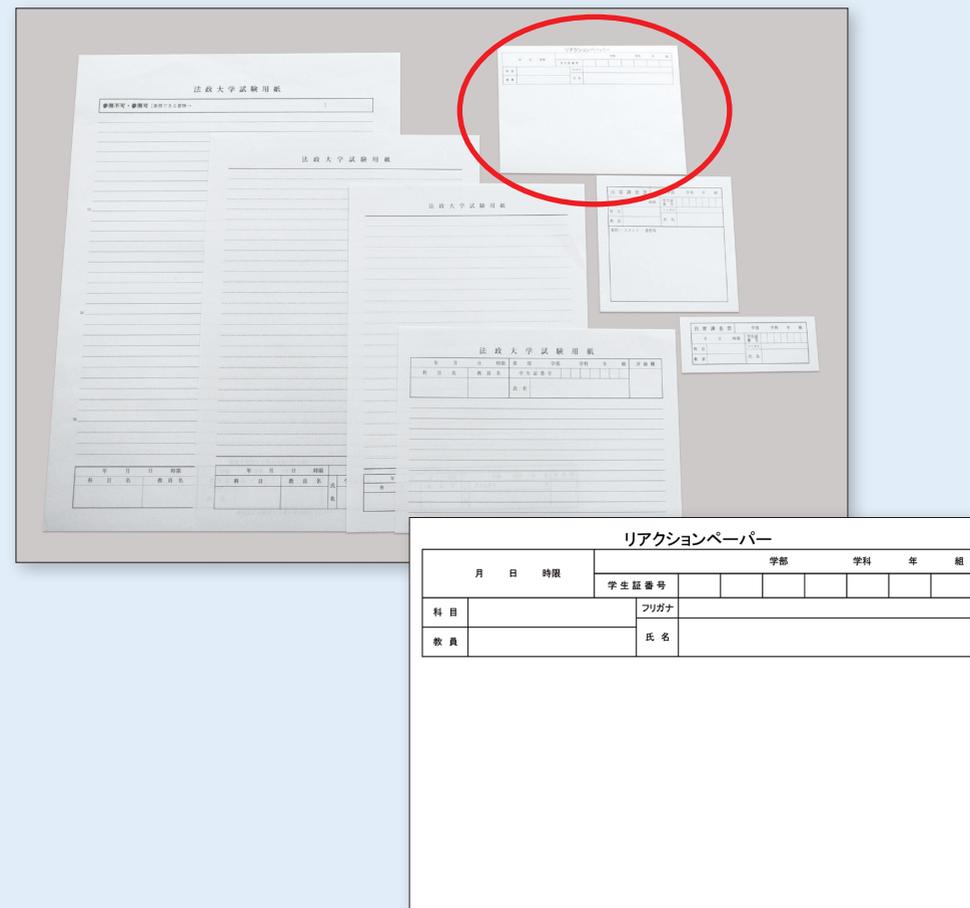
授業にてクリッカーを利用し学生の理解度などを把握します。また、アンケートにも利用できます。授業中に教員は事前に作成した問題内容をスクリーンに提示します。学生は提示された問題を見て0～9のうちから適切な番号をスマートフォン等で入力すると、集計されたグラフ形式の回答結果を即座にスクリーン上に提示することができます。クリッカーを活用することで、学生が自らの理解度を確認できるだけでなく、授業への参加意識を高めることも期待されます。

◆ アクティブラーニングセット

法政大学は長期ビジョン「HOSEI2030」にもとづき「**アクティブラーニングの推進**」を行っています。その一環として、教育開発支援機構では、2017年11月より以下の取り組みを開始しました。ぜひご活用ください。

①リアクションペーパー (A6サイズ)

試験用紙・出席調査票など一連の法政大学用紙 (A3, B4, A4, B5, A5 など) に加え、新たにリアクションペーパーとしてA6サイズの用紙を教授室・講師室に設置しました。



②アクティブラーニングセット

KJ法^{★2}などに活用できる付箋(75mm×75mm)、黒・赤ペンを1セットとしたアクティブラーニングセットを教室・講師室に設置しました。また、発表用サイズの模造紙も設置しました。

※ともに通常授業での使用に限る。数に限りがあります。



【注意】上記取り組みは、当該年度の予算状況により、年度途中の停止・廃止する場合があります。

その他、授業において活用いただけるツールや手法は、FD推進センターのWebサイトにある「FDハンドブック」にて紹介しています。興味のある方はご参照ください。

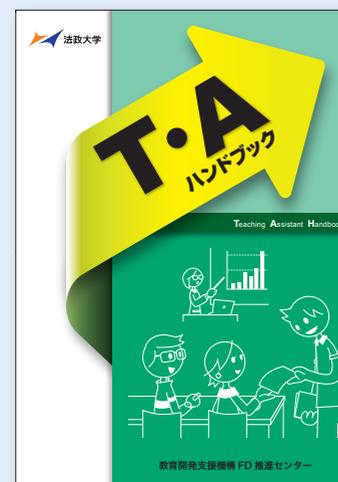
★2 KJ法：川喜田二郎 東京工業大学名誉教授がデータをまとめるために考案した手法

3. ティーチング・アシスタント (T・A) を活用する

本学には、大学院生に授業や教育活動をサポートしてもらうT・A制度が設けられています。教材作成の補助、資料配布、機材の準備、学部生へのチュータリング(助言)のほか、出席管理や小テストの採点(定期試験を除く)など、授業時間内外の様々な補助業務を担ってもらうことができます。ただし、成績評価や授業に関係のない教員個人の秘書的業務を任せるとはできません。また、T・Aが勤務可能な授業時間は週5回(大学院授業は週6回)までとなっています。

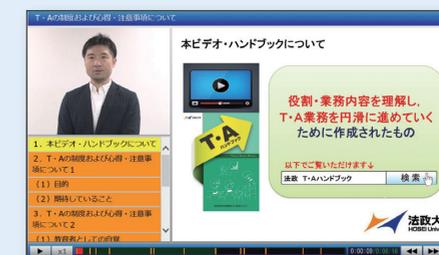
FD推進センターでは、下記のように「T・Aハンドブック」の配布および動画配信を行っています。T・A制度を利用する際は各学部にお問い合わせください。

T・Aハンドブック

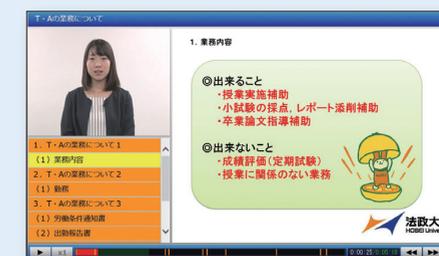


動画配信

1. T・Aの制度および心得・注意事項について



2. T・Aの業務について



3. 座談会「私のT・A体験」



授業移行モデル概要

大学で行われている授業は多様であり、その目的や方法も多岐にわたります。

下表は90分授業が100分授業になるときの移行モデルをまとめたものです。いずれのモデルでも100分授業への移行はこれまでの授業を振り返る機会でもあるので、「授業を行うためのヒント」(p.6)をあわせてご参照ください。

移行モデル	概要
再構築型	アクティブラーニングなどの手法を導入し、授業そのものの構造を再構築します。
各回+10分型	14回の授業において、グループ・ディスカッション、演習、小テスト、リフレッシュタイムなどを追加します。
全体+50分型	授業時間が1350分から1400分になり+50分となるので、その50分でできる新たな内容を追加します。
50分×2回型	100分の授業を50分+50分と考え、途中リフレッシュタイムを挟むなどして50分2回の授業とします。
単元再編成型	ひとつの主題を扱う数分から数十分の授業のセットである単元を、100分×14回に当てはめ直します。
複合型	上記の移行モデルを組み合わせます。

授業移行モデル解説

再構築型

○ メリット

学生の集中力は10~20分程度と言われているので、10~20分ごとの単元に授業を区切って構成することが考えられます。それぞれの単元では学習の方法を変化させると学生のモチベーションが継続します。

△ デメリット

90分を講義型で授業を行ってきた場合には新たに授業設計を行う必要があります。



各回+10分型

○ メリット

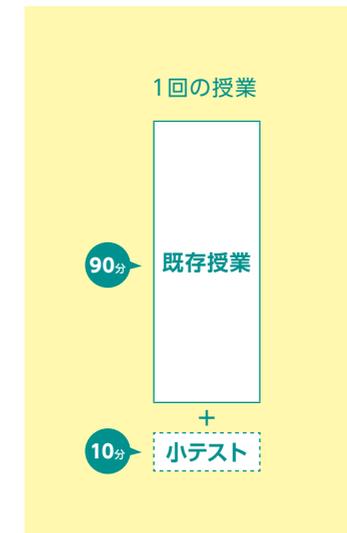
これまでの授業の前もしくは後ろに10分の新たな学習を加えます。

授業の前であれば、その授業で理解させたい問題を小テストなどで確認し、正答率が低い問題に関する説明を丁寧に行います。

一方授業の後であれば、授業を振り返るための小テストやMind Mapなどを書かせます。こうした思考はリフレクションや省察とも言われ、学生がどのように学習したかを自覚する教育効果があると言われています。

△ デメリット

小テストの作成、収集や管理が煩雑になります。教育開発支援機構では、こうした課題を解消するためのツールとして「jimonシステム」を用意しています。同システムを利用することで、採点結果の集計・整理、学生への返却といった一連の作業を自動化できます。詳細は「FDハンドブック」をご参照ください。



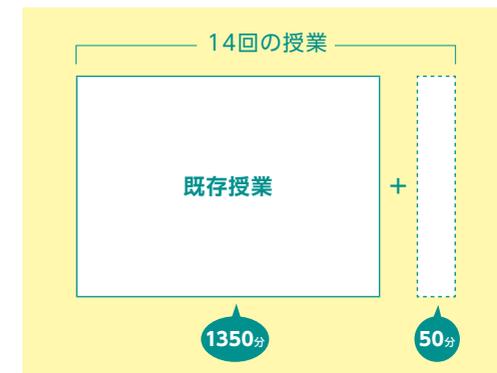
全体+50分型

○ メリット

100分授業制では14回の授業時間の合計が1400分となり、50分授業時間が増えます。これまで時間の制約で教えられなかったテーマをこの時間で教えることができます。

△ デメリット

特にありません。



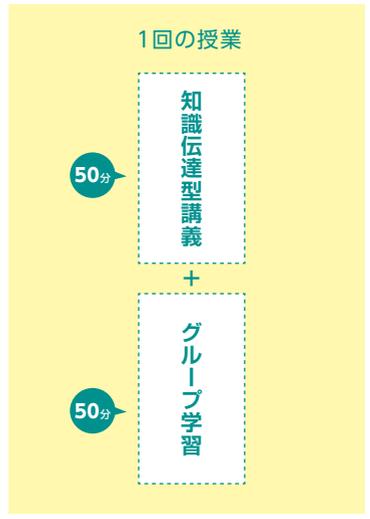
50分型×2回型

○ メリット

100分を2回の50分授業と想定した構成とします。始めの50分が終了した際には教員および学生の気分転換のためのリフレッシュタイムなどを設けるとよいでしょう。
再構築型に類似していますが、授業設計は再構築型に比べれば容易です。

△ デメリット

再構築型と同様、90分を講義型で授業を行ってきた場合には新たな授業設計が必要となります。



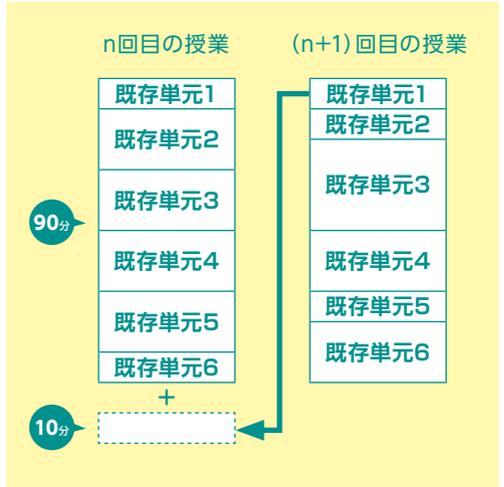
単元再編成型

○ メリット

既存の授業が10~20分の単元で構成されている場合、15回の授業を構成している単元を14回の授業に再配置します。この場合、100分授業制では授業時間が50分増えるので、新たな単元を1~2追加することができます。

△ デメリット

関連性の強い単元が別の週になると学生の理解度が低くなるので、再編成の際にそれらを考慮する必要があります。



大学における授業は、学生が受動的となる教員から学生への一方的な知識伝達型講義から、学生が能動的となる学生参加型授業あるいはアクティブラーニングに変わろうとしています。

FD推進センターでは、教員の参考になるようなコンテンツを用意していますので、ぜひご参考ください。

新入生に配布する
初年次教育用冊子

学生からの
授業アンケート

授業・学会等で使用
する英語のサポート

FD推進センター
からのお知らせ

初年次教育モデル
授業の公開

授業を行うための
方法論・
各種テンプレート

授業における
ひと工夫のコラム集

🔍 法政FD 🔍 www.hoseiyoiku.jp/fd/

FDハンドブック

FDハンドブックは授業を行うための方法論あるいは各種テンプレートなどをまとめたものです。

このハンドブックでは、教員が授業を行う際に必要となる作業を、セメスターにまたがる一連のプロセス（授業設計→シラバス作成→授業→テスト→成績入力など）と、各回の授業におけるプロセス（準備→授業実施→小テスト・レポート出題など）にブレークダウンし、各ステップにおけるヒントや利用できる各種ツール・サービスを紹介しています。

また、「自由を生き抜く実践知」を学生に伝えるための総長からのビデオメッセージや「学生が選ぶベストティーチャー賞」の授業ビデオなど、動画コンテンツも掲載しています。

FDハンドブックフローチャート形式目次



FDハンドブックリスト形式目次

FDハンドブック

法政大学の教員が授業を行う際に参考となる情報を集約した教員向けFDハンドブックです。

フローチャート形式目次 リスト形式目次

学期の授業プロセス	毎回の授業プロセス
授業設計 <ul style="list-style-type: none"> 概要 総長ビデオ 授業設計 授業方法 学生が選ぶベストティーチャー賞 教員サービス 	授業準備 <ul style="list-style-type: none"> 概要 予習および復習
シラバス作成 <ul style="list-style-type: none"> 概要 シラバス作成ガイド モデルシラバス 	授業実施 <ul style="list-style-type: none"> 概要 テスト実施 <ul style="list-style-type: none"> 概要 テスト方法 手書き文書統合システム(jimon)
学期にわたる授業 <ul style="list-style-type: none"> 概要 教材作成 教員支援ツール一覧 授業支援ツール一覧 	レポート課題出題 <ul style="list-style-type: none"> 概要 レポート課題出題方法
テスト/アンケート実施 <ul style="list-style-type: none"> 概要 授業改善アンケート 試験用紙 	資料一覧/問合せ <ul style="list-style-type: none"> 概要 資料一覧 問合せ
成績入力 <ul style="list-style-type: none"> 概要 成績登録ガイド Web成績登録 	
授業評価 <ul style="list-style-type: none"> 概要 ARCSモデル 	

授業設計

授業設計

シラバスを作成し、所定回数の授業を行い、定期試験を行い、評価するという一連の作業を方法論としてまとめた内容を紹介しています。

授業設計

概要 総長ビデオ **授業設計** 授業方法 学生が選ぶベストティーチャー賞 教員サービス

シラバスを作成し、所定回数の授業を行い、定期試験を行い、評価するという一連の作業を方法論としてまとめたものが授業設計です。改めて授業設計を学ぶのではなく、今実践されている授業を方法論と照らし合わせることで、自身の授業の良い点と改善すべき点を把握することができます。インスタラジショナルデザイン(ID)は、教えるという行為とその成果を研究対象とし、その研究成果として上手な教え方を実行するためのモデルと理論を提供します。(向後、2015) 下記にそれらの一例を示します。

ADDIEモデル

Analysis(分析)、Design(設計)、Development(開発)、Implement(実施)、Evaluation(評価)の頭文字をとったモデルです。(稲垣、鈴木、2016)

- 分析：学習者の特性や前提知識、教える内容を分析し、目標を明確にします。
- 設計：教材研究を行い、教える内容の見取り図を作ります。
- 開発：単元の計画、授業の流れをまとめ、教材や学習環境を準備します。
- 実施：用意した教材を使って実際に授業を行います。
- 評価：授業後に授業の振り返りをします。

ARCSモデル

授業において学生のモチベーションを維持するための方法論で、こちらを参照してください。

キャロルの時間モデル

「良い成績をおさめるためには、それに必要な時間を使う」という理論です。学習に必要な時間は、(課題への適正) x (授業の質) x (授業理解力) で表されます。

- 分析：学習者の特性や前提知識、教える内容を分析し、目標を明確にします。
- 課題への適正：教科や課題の得意・不得意
- 授業の質：高い質の授業は短時間で十分学ぶことができる。
- 授業理解力：教員の意図を理解する一般的な知識

ガニエの9教授事象

教員が学生に対して与える外的な刺激という観点から整理された理論です。(稲垣、鈴木、2016)

1. 学生の注意を喚起する。
2. 学習目標を知らせる。
3. 前提条件を確認する。
4. 新しい事項を提示する。
5. 学習の指針を与える。
6. 練習の機会を設ける。
7. フィードバックをする。
8. 学習の成果を評価する。
9. 保持と転移を高める

授業設計

教員サービス

ご利用いただける各種サービスを紹介しています。

授業設計

概要 総長ビデオ 授業設計 授業方法 学生が選ぶベストティーチャー賞 **教員サービス**

教員が授業を実施するために大学が提供している教員向けの情報およびサービス一覧です。

#	情報/サービス	概要	提供方法/問合せ
1	FD推進センター Webサイト	学習支援ハンドブック、FD学生の声コンクール、法政教員の輪、Newsletter、モデル授業などの情報が提供されています。	Web
2	アカデミック・サポート・サービス	シラバスや教材等の英文チェック・アドバイス、授業内でのClassroomEnglishのチェック・アドバイス、発音の確認、練習、ガイダンス等での原稿チェック、アドバイス等に関するマンツーマンレッスンです。	Web
3	学生授業モニター	認定を受けた学生モニターが学生の視点で担当される授業の改善点を提案します。	kyoiku@hosei.ac.jp
4	GPCA分析結果フィードバック	担当する授業のGPAを授業規模、所属学部、大学全体の視点から各学期ごとに分析・比較し、それらの結果を教員にフィードバックします。	郵送
5	授業支援システム Hetudes	文字通り授業を支援するシステムで、お知らせ、教材、レポート課題、テストなどをWebを通じて学生に提示することができます。	Web

FDハンドブック目次と概要

学期にわたるプロセス	概要
授業設計	担当する授業の目的を達成するにあたり、学期にわたる授業全体の構想を練るための方法論などが掲載されています。
シラバス作成	シラバス（授業概要・計画）を作成するためのガイドが掲載されています。
学期にわたる授業	授業で必要となる教材作成、教室設備、教員支援ツールの利用方法などの情報が得られます。
テスト/アンケート実施	授業改善アンケートの方法や試験用紙のテンプレートが掲載されています。
成績入力	授業や定期試験の終了とともに行う採点の基準やWebによる成績登録の方法が掲載されています。
授業評価	次年度の授業のために今年度の授業の振り返りを行うためのARCSモデルが紹介されています。

毎回の授業プロセス	概要
授業準備	単位の考え方、予習および復習の考え方が説明されています。
授業実施	100人の教員がいれば100通りの授業のやり方があると言われるほど大学の授業は多様です。最近では情報技術の進歩によって学生が保有するスマートフォンを使った授業や、反転学習といったビデオによる事前学習などの方法が開発されています。 本学教員が独自で考案した「授業のひと工夫」の紹介や、東京大学における105分の授業の進め方などが含まれています。
テスト実施	学生の理解度や授業への参加意欲を高めるための小テストやミニッツペーパーが紹介されています。
レポート課題出題	授業支援システムによるレポート課題出題方法の説明があります。

その他	概要
資料一覧/問合せ先	FDハンドブックにて参照した資料の一覧と各種問合せ先が掲載されています。

FDアーカイブズ

本学の教員が実践している「授業のひと工夫」をまとめたコラム集をFDアーカイブズとして公開しています。FDアーカイブズは属人化しがちな教育ノウハウの共有を目的としたコラム集ですが、ご自身の授業に生かせるアイデアやTipsが眠っているかもしれません。また、GPA、シラバス、ポートフォリオといった授業に関わる用語の解説のほか、昨今注目を集めているアクティブラーニングに関する実践例も掲載しています。

アクティブラーニングは次のように定義されますが^{★3}、本学の長期ビジョン「HOSEI2030」でも推進している授業方法です。

アクティブラーニングとは……

一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

このようなアクティブラーニングは本学教員の間でも従来から行われてきているため、FDアーカイブズではそうした事例も多数紹介しています。

100分授業への変更を契機に、授業で新たな取り組みをしてみたいとお考えの際は、ぜひアクセスしてみてください。

The screenshot shows the FD Archives website interface. At the top, there's a search bar and a '検索' button. Below it, a search result for '私の授業のひと工夫 第26回' is displayed, including the author '川崎 真子' and the date '2017年9月27日 3:00 PM'. A 'カテゴリ' dropdown menu is visible, showing 'FDアーカイブズとは / 記事検索方法'. Below the search results, there's a list of articles under the heading 'FDアーカイブズ' and '教員の質的向上に向けた法政大学教員によるコラム集'. The list includes titles like '私の授業のひと工夫 第26回' and '私の授業のひと工夫 第25回' with their respective authors and departments.

★3 溝上慎一、アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、東信堂、2014。

ここでは、過去のコラムの一部を抜粋してご紹介します（記事は掲載当時のまま）。

文学部 川崎 貴子先生 「私の授業のひと工夫 第26回」より

講義の間にはたくさんの「問題」を挟んでいます。問題を解くことで、聴いて理解できたつもりでも、実際は理解出来ていない箇所気付くことが出来るようです。

問題を解いている時には教室を廻り、質問を受け、アドバイスをします。講義の途中では中々質問出来ない学生が多いです。しかし、みんなで協力しながら問題を解いている時であれば、教員を呼び止めて質問する学生がたくさん出てきます。そして質問を受けることで、学生にとって理解しづかった箇所はどこなのかが特定でき、説明を加えるなどの対処をすることが出来ます。

時折、**授業で学んだある事柄を、ご家族かお友だちに説明し、どのような反応があったかを書き留める…という宿題**を出します。言語学の基礎知識のない人に説明するためには、しっかり理解し、どのように説明すれば理解してもらえるか、プランを立てなければなりません。説明すると、内容を楽しんでくれる場合も多いようです。

専門職大学院法務研究科 大中有信先生 「大講義の工夫（民法・入門講義の場合）」より

◆ 全員を巻き込む

私の講義は常時400名から500名の学生が聴講しているため、最前列の学生と教室（511教室）の後ろに座っている学生では物理的にもずいぶん離れている。次第に分かってきたことだが、後列の学生はどうも自宅テレビでも見ているように感じているようである。とくに前列の学生に質問したりすると後列の学生は「疎外感？」を感じるのか私語も出て来ることが多い。そこで、**語りかける時は必ず最後列の学生に視線を送りながら、場合によっては講義室を歩き回りながら話すよう心がけている。**資料を配布する際も、前列の学生に渡して送ってもらうだけでなく、後列の学生にも配布し、前に送ってもらうようにしている。そうすると、学生も**「講義は自分に語りかけられているのだ」と**感じるようで一応おとなしく聴講していることが多い。

◆ 話は15分単位

弁護士や裁判官の卵に司法修習所でおこなわれる司法研修の授業も50分が1コマであり、現在の90分間連続の講義は、学生にとって集中力を維持するのは難しい。それは自分が聴講する側だった時の記憶をたどってもそうである。私の場合は、**15分を目安に、本論をいったん断ち切り講義とは直接関係のない話を間に挟んで、一休みすることにしている。**入門的な講義であるため、そのような時には法律を専門的に学ぶことの意味（私が体験した実務的な話が多い）や、時事的な法律の話題が多い。とくに用意しているわけではないが、講義の本論から連想される**「脱線」は長すぎなければ、話す方にも聞く方にもリフレッシュの機会となり、より緊張感を持つて本来の講義内容に集中することができるように**感じている。

経営学部 田中 洋先生 「様々な授業形態」より

◆ 学生にできるだけ、知的刺激を与える

多くの場合、この科目はこのような形態で行われることが普通と理解されていることが多いものです。例えば、語学は講義と演習形式で行われることが多いと思われませんが、化学などは実験形式で行われる場合があります。重要なことは、こうした**従来の講義形式に囚われず、ひとつの講義でもさまざまな講義スタイルをもつことです。**いくつかの方式を組み合わせることを考えてはどうでしょうか。仮に大教室の講義であっても、

- (1) 道具を持ち込んで、実際にデモンストレーションを行ってみる
- (2) 教室外に出て、特定の場所で観察活動を行う
- (3) パソコンなどを用いて「実験」形式を取り入れる
- (4) ゲストを呼び、より効果的な授業を行う

などです。**学生は講義に知的刺激を求めているものです。**そうした欲求に常に答えることは困難ですが、単調になりがちな授業を避けるためにも、多様性のある講義形式を取り入れたいものです。

理工学部 中野 久松先生 「講義（電磁波デバイス工学）の工夫」より

自作のプリントを配布し、教科書として使用している。教科内容は論理の厳格な積み重ねを含み、そのため、学生は結論にたどりつくのに、いくつもの思考段階を経なければならない。Aが理解できなければ、Bにはたどり着けない。Bが判らなければ、Cが理解できない。以下、同様。そこで、学生が結論にたどり着けるよう、**一段階終わるごとに、きめ細かく「まとめ」をおこない、授業にメリハリをつけている。**この「まとめ」によって、学生はどこが重要なのかを認識できる。

また、「まとめ」を読むだけで、授業の流れがわかるようになっている。一回の授業で、平均2題程度の「まとめ」に関連した演習もおこなっている。特に難問というわけではない。当然知らなければならない「基礎的内容」と、将来、卒業論文をまとめる上で必要となる「応用的内容」とを演習している。

学生がどれだけ授業に興味をもてるかは、学生自身の「理解」の深さに依存する。理解を深めるために、毎回宿題を出す。例えば、**数式の導出では、大部分を、授業中に行うが、少し残し、その残した部分を宿題としている。**次回の授業は、その解答から始まる。何人かの学生に解答を黒板に書いてもらい、間違い箇所の訂正や補充をおこなう。学生の理解の度合いが把握でき、以後の授業の参考になる。授業のスピードが早すぎないか？ 私自身の反省材料にしている。

ARCSモデル

ARCSモデルとは

教員にとって授業チェックシートというと、何となく授業の改善点を指摘されるような印象がありませんか。ARCSモデルチェックシートは確かに改善すべき点を気づかせてくれますが、教員が日頃授業で工夫している点も気づかせてくれます。例えば、授業を始める際に、その日授業で行うトピックスに関連するニュースあるいはビデオなどを学生に提示することはないでしょうか。こうした工夫はARCSモデルで説明することができます。

ARCSモデルとは、学習意欲を

「注意 (Attention)」

「関連性 (Relevance)」

「自信 (Confidence)」

「満足感 (Satisfaction)」

の4つの要因でとらえ、授業における学習者の学習意欲の分析や、学習意欲を高めるために提案されたモデルで、これらの4要素の頭文字をとってARCSモデルといいます。



授業に対する学生のモチベーションを維持するための方法論であり、次の12の質問で授業をチェックすることができます。

- ① 知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？
- ② 知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？
- ③ 学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？
- ④ 学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？
- ⑤ 目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？
- ⑥ 学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？
- ⑦ 学生に期待することおよび評価することを理解させているか？
- ⑧ 成功を経験する機会を学生に与えているか？
- ⑨ 成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？
- ⑩ 学生が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？
- ⑪ 学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？
- ⑫ チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？

チェックシート

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート (グレーのセルに記載してください。)					
授業科目・対象学科・学年・人数 (必修/選択)		担当	年度/期		
学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
Attention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 ・視覚的な例題・課題を提示する。		
	A-2 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	・応用課題(自由課題)を課す。 ・授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。		
	A-3 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？	・各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 ・期を越えての授業では、復習のみ、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。		
Relevance 関連性 学生の情動的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	・初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。		
	R-2 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	・その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶが講義とする。 ・ロールモデルの提示としてゲストスピーカーや卒業生の講演を取り入れる。		
	R-3 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	・学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 ・日常的に使っているシステムの課題を提示する。		
Confidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	・授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 ・講義の目的等を主要トピック毎に提示する。		
	C-2 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	・プログラム、コンテンツ、観点など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 ・演習問題や課題によって、理解度・習得度を確かめる機会を与える。		
	C-3 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	・前を過ぎて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 ・Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身につけたことを実感させる。		
Satisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	・応用課題(自由課題)を課す。 ・1,2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。		
	S-2 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	・報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 ・学生投資あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。		
	S-3 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	・成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントともに結果をフィードバックする。 ・レポートなどについても採点基準を示す。		

チェックシート利用法

1. すでに取り組みされている授業改善方法の気付き

【事例】

- ・その回の授業内容に関連するビデオを見せて学生の興味をひく。
- ・目に見えるものを制作することによって達成感を与える。
- ・授業内コンテストを行う。

2. まだ取り組めていない授業改善方法の気付き

【事例】

- ・優れた提出物を授業内で紹介する。
- ・参考文献やオススの作品は単に名前を挙げるだけではなく、内容や魅力を口頭で紹介するようにする。

★FDハンドブックではARCSモデルに基づいた授業改善事例集も紹介していますので、ぜひチェックしてみてください。